

第 18 回基本政策部会 議事要旨

1 日 時

令和 3 年 4 月 22 日（木）13:00～15:10

2 場 所

中央合同庁舎 4 号館 12 階 全省庁共用 1208 特別会議室

3 出席者

(1) 委 員

中須賀部会長、松井部会長代理、青木委員、石田委員、片岡委員、栗原委員、柵山委員、篠原委員、白坂委員、角南委員、常田委員

(2) 事務局

宇宙開発戦略推進事務局 松尾事務局長、岡村審議官、吉田参事官

(3) オブザーバ

宇宙航空研究開発機構（JAXA） 石井理事

(4) 関係省庁

文部科学省大臣官房審議官	長野 裕子
研究開発局宇宙開発利用課宇宙利用推進室長	国文 正秀
企画官	笠谷 圭吾
内閣府宇宙開発戦略推進事務局	
準天頂衛星システム戦略室長	上野 麻子

4 議事要旨（○：意見等）

石田委員、内閣府および文部科学省から、資料 1～6 に基づいて説明が行われた。質疑応答について、以下の意見があった。

<将来宇宙輸送システムについて>

- コストのターゲットや実現に向けたスケジュールについては、競合の技術進展など市場の動向を踏まえて、スピード感を意識して取り組むことが重要。
- 民間との協業においては、技術・資金の提供、需要の提供、正当性の付与といった官の役割を具体化していくことが重要。

<アルテミス計画について>

- 我が国の宇宙科学プロジェクトがこうした国際的な大きな取組にしっかり貢献していくことが意義がある。SLIM（小型月着陸実証機）MMX（火星衛星探査）なども視野に入れて、我が国としての貢献に取り組んでいくことが重要。

<衛星測位の取組方針について>

- 準天頂衛星の利活用の拡大に向けては、自動車のようなボリュームのあるマーケットに入ることが重要であり、そのためには、グローバルなシステムと互換性を持たせながら、取り組んでいくことが重要。
- 受信機の低コスト化や、原子時計のように海外に依存している基幹部品の技術安全保障の観点も含め、スピード感を持って取り組んで行く必要がある。
- 普及に向けては、市場に任せるだけでなく、新しい社会インフラに標準として組み込んでいくことが重要であり、そのためには、制度設計も含めてユーザー産業と密接に対話を行っていくことが重要。

<これまでの議論を踏まえた論点整理について>

- 海外では小型衛星コンステレーションについて、早く実際に打ち上げて運用の経験をしながらか、そのフィードバックにより性能を向上するという戦略で急速に構築が進んでおり、今我が国として手を打たないと勝負が決まってしまうおそれがある。防災や海洋状況把握など活用が考えられる分野を念頭にスピード感を持って、我が国としての小型コンステレーション構築に取り組んでいく必要がある。
- 我が国の法制度について、小型衛星コンステレーション事業者に適したものになっているかどうか、国際的なベンチマークを念頭に考えていく必要がある。
- 今後、宇宙システムがグローバルに接続されていく中で、特にサイバーセキュリティが重要になる。日本のセキュリティ体制が遅れていると協業ができないという事態になるので、日本としてもしっかり取り込んでいく必要がある。また、資金調達やサプライチェーン、知財、人材などを含め経済安全保障の観点を強く意識して取り組んでいく必要がある。